

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、円安の進行などを背景とした情勢の中、企業収益や雇用環境に改善傾向もみられ、景気は緩やかな回復基調が続きました。

このような環境の下、当社グループの事業概況といたしましては、以下のとおりとなりました。

「航空関連事業」・「メディア・ライフサービス事業」においては、不動産関連での前期第2四半期における事業用不動産販売の反動減などがありましたが、売上高については、主に航空関連での航空機エンジン部品の販売伸張などにより増収となり、また営業利益面では当第2四半期におけるエンジンや空港特殊車両の販売などにより増益となりました。

「リテール事業」・「フーズ・ビバレッジ事業」においては、訪日外国人数の増加などによる国際線空港を中心とした店舗や免税店舗販売及び地方空港免税店舗向け卸販売が引き続き増加したことに加え、水産物の販売増加や農産関連の国内外連結子会社の改善などにより売上高・営業利益面共に前年実績を上回る結果となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は68,519百万円（対前年同期比134.5%）となりました。損益面では、営業利益1,926百万円（対前年同期比197.5%）、経常利益1,976百万円（対前年同期比183.2%）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,125百万円（対前年同期比208.8%）となりました。

連結業績 (金額単位：百万円)	前第2四半期 (平成26年4～9月)	当第2四半期 (平成27年4～9月)	前期比 (%)	前期差
売上高	50,952	68,519	134.5	17,567
営業利益	975	1,926	197.5	951
経常利益	1,078	1,976	183.2	897
四半期純利益	538	1,125	208.8	586

## [セグメントの概況]

セグメント別の概況につきましては以下のとおりです。なお、各業績数値は、グループ内セグメント間売上高及び振替高、配賦不能営業費用（管理部門の費用等）調整前の金額です。

## ① 航空関連事業

航空機関連では、航空機エンジン部品の販売伸張などにより引き続き増収となり、当第2四半期におけるエンジンや機材関連での空港特殊車両の販売などにより増益となりました。

これらの結果、セグメント合計では、売上高27,146百万円、営業利益625百万円と、それぞれ増収・増益となりました。

航空関連事業 (金額単位：百万円)	前第2四半期 (平成26年4～9月)	当第2四半期 (平成27年4～9月)	前期比 (%)	前期差
売上高	12,067	27,146	224.9	15,078
営業利益	187	625	333.1	437

## ② メディア・ライフサービス事業

保険関連では、保険代理店BPO業務\*や保険通信販売などが増加し順調に推移しました。メディア関連では、用紙販売などが増加し順調に推移しました。一方で、不動産関連では、入居者数、利用者数増加による高齢者向け介護関連施設賃貸・運営事業の改善がありましたが、前期第2四半期における事業用不動産販売の反動減により前年を下回りました。

これらの結果、セグメント合計では、売上高5,131百万円、営業利益490百万円と、それぞれ減収・減益となりました。

\*保険代理店BPO (Business Process Outsourcing) 業務：個人向け保険業務の一環である顧客サービス業務（契約手続きやコールセンター業務など）の一部を受託する事業

メディア・ ライフサービス事業 (金額単位：百万円)	前第2四半期 (平成26年4～9月)	当第2四半期 (平成27年4～9月)	前期比 (%)	前期差
売上高	6,775	5,131	75.7	△1,644
営業利益	549	490	89.2	△59

## ③ リテール事業

ブランド・免税関連では、訪日外国人数の増加に伴い、地方空港免税店舗向け卸販売や連結子会社の株式会社AL-DFSが運営する免税店舗販売（成田・羽田空港）が増加し引き続き好調に推移しました。空港店舗関連（BLUE SKY）では、国際線空港（成田・関西空港等）を中心とした店舗販売の増加などにより順調に推移しました。通信販売関連では、食品カタログ通販が伸張し、販売促進策に伴う新規顧客数増加などもあり概ね前年並みに推移しました。また、本年7月にグレンフィールド株式会社（雑貨類の輸入・商品開発など）、グレンチェック株式会社（雑貨類の通信販売など）が当社の連結子会社となりました（平成27年5月27日発表）。贈答用食品関連では、百貨店向けの販売を見直したことなどにより売上高に影響がありましたが、利益は改善しました。

これらの結果、セグメント合計では、売上高25,370百万円、営業利益1,436百万円と、それぞれ増収・増益となりました。

リテール事業 (金額単位：百万円)	前第2四半期 (平成26年4～9月)	当第2四半期 (平成27年4～9月)	前期比 (%)	前期差
売上高	22,552	25,370	112.5	2,818
営業利益	1,042	1,436	137.7	393

## ④ フーズ・ビバレッジ事業

農産関連では、主力であるパプリカの他、西洋野菜などの販売による売上高は概ね前年並みとなりましたが、国内外の農産関連連結子会社の運営費用の見直しなどにより利益が改善しました。水産関連では、主力であるサバ・サーモンなどを中心とした水産物の販売が増加しました。ワイン関連では、ブランド力のあるワインを中心に販路拡大などを行い、西日本地域を含めた業務用卸販売の増加により順調に推移しました。連結子会社である日本エアポートデリカ株式会社は、夏季における需要増や新規商品の投入、また空港以外の販路拡大などにより堅調に推移しました。（なお、水産・農産・ワイン関連では、輸入販売を主とし円安の影響を受けています。）

これらの結果、セグメント合計では、売上高11,342百万円、営業利益243百万円と、それぞれ増収・増益となりました。

フーズ・ビバレッジ事業 (金額単位：百万円)	前第2四半期 (平成26年4～9月)	当第2四半期 (平成27年4～9月)	前期比 (%)	前期差
売上高	10,057	11,342	112.8	1,285
営業利益	101	243	239.5	141

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

航空機部品の卸売による売上債権が減少しました。また、前連結会計年度に仕入れを行った航空機エンジン部品、エンジン及び水産加工品などの販売により、たな卸資産が減少しました。一方で、還付対象の消費税が増加したため、未収消費税が増加しました。また、連結子会社株式の取得により、同社が保有している資産が増加しました。

その結果、総資産は前連結会計年度末と比較して157百万円減少し、38,351百万円になりました。

(負債)

航空機部品の卸売による仕入債務が減少しました。一方で、百貨店向けギフトに係る前受金が増加しました。また、連結子会社株式の取得により、同社が保有している負債が増加しました。

その結果、負債合計は前連結会計年度末と比較して1,097百万円減少し、19,805百万円になりました。

(純資産)

剰余金の配当を行った一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加しました。

その結果、純資産は前連結会計年度末と比較して939百万円増加し、18,546百万円になりました。また、自己資本比率は2.3ポイント増加し、45.3%になりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、資金という）は、前連結会計年度末と比較して1,791百万円増加し、7,248百万円になりました。

各キャッシュ・フローの内容につきましては、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

仕入債務が減少した一方、税金等調整前四半期純利益に加え、売上債権及びたな卸資産が減少しました。その結果、営業活動により獲得した資金は3,429百万円（前年同四半期より1,193百万円収入増）になりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

連結子会社株式の取得に伴う収入が発生した一方、空港店舗改装等に伴う固定資産の取得による支出を行いました。その結果、投資活動により使用した資金は172百万円（前年同四半期より77百万円支出増）になりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

配当金の支払いや借入金の返済を行いました。その結果、財務活動により使用した資金は1,486百万円（前年同四半期より33百万円支出減）になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期通期連結業績予想につきましては、業績動向を踏まえ修正いたしました。

詳細につきましては、本日（平成27年10月30日）公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

### （2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

##### （企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しています。また、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っています。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っています。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58－2項(4)、連結会計基準第44－5項(4)及び事業分離等会計基準第57－4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しています。

なお、この適用による当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,459,997	5,807,533
受取手形及び売掛金	12,650,371	10,035,514
有価証券	—	1,500,000
たな卸資産	9,498,822	8,798,743
その他	2,979,351	4,138,488
貸倒引当金	△33,029	△29,166
流動資産合計	30,555,513	30,251,114
固定資産		
有形固定資産	3,465,037	3,573,314
無形固定資産	505,411	459,103
投資その他の資産	3,950,587	4,043,642
固定資産合計	7,921,035	8,076,060
繰延資産	32,445	24,309
資産合計	38,508,995	38,351,483
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,300,483	8,518,728
短期借入金	2,151,493	1,967,861
未払法人税等	565,278	593,128
未払費用	2,509,260	2,781,336
その他	1,965,645	2,856,946
流動負債合計	17,492,162	16,718,000
固定負債		
長期借入金	2,676,428	2,305,550
退職給付に係る負債	61,516	67,343
その他	672,333	714,298
固定負債合計	3,410,278	3,087,193
負債合計	20,902,440	19,805,193
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,558,550	2,558,550
資本剰余金	711,250	711,250
利益剰余金	13,366,520	14,175,386
自己株式	△139,647	△139,938
株主資本合計	16,496,673	17,305,247
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,614	6,835
繰延ヘッジ損益	78,096	△4,315
為替換算調整勘定	△38,162	37,931
退職給付に係る調整累計額	25,345	24,234
その他の包括利益累計額合計	75,893	64,685
新株予約権	4,231	4,231
非支配株主持分	1,029,756	1,172,125
純資産合計	17,606,555	18,546,290
負債純資産合計	38,508,995	38,351,483

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	50,952,158	68,519,529
売上原価	41,249,531	57,317,150
売上総利益	9,702,626	11,202,379
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	564,918	711,518
給料及び手当	3,067,668	3,189,748
退職給付費用	117,957	99,033
減価償却費	174,067	156,796
貸倒引当金繰入額	2,037	△39,744
賃借料	2,017,671	2,143,286
その他	2,783,095	3,015,242
販売費及び一般管理費合計	8,727,417	9,275,880
営業利益	975,209	1,926,498
営業外収益		
受取利息	3,413	3,583
受取配当金	18,913	24,870
持分法による投資利益	55,362	107,700
為替差益	46,635	—
その他	33,730	50,694
営業外収益合計	158,056	186,849
営業外費用		
支払利息	23,116	26,774
支払手数料	17,390	3,514
為替差損	—	95,305
その他	13,921	11,696
営業外費用合計	54,429	137,290
経常利益	1,078,836	1,976,057
特別利益		
固定資産売却益	5,547	761
投資有価証券売却益	—	9,639
負ののれん発生益	—	10,889
特別利益合計	5,547	21,290
特別損失		
固定資産処分損	788	6,924
特別損失合計	788	6,924
税金等調整前四半期純利益	1,083,596	1,990,423
法人税等	442,929	689,724
四半期純利益	640,666	1,300,698
非支配株主に帰属する四半期純利益	101,909	175,670
親会社株主に帰属する四半期純利益	538,757	1,125,028

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純利益	640,666	1,300,698
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,819	△4,948
繰延ヘッジ損益	28,513	△82,412
為替換算調整勘定	△141,699	117,731
退職給付に係る調整額	7,424	△1,111
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,298	△41,665
その他の包括利益合計	△104,241	△12,406
四半期包括利益	536,425	1,288,292
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	432,624	1,113,819
非支配株主に係る四半期包括利益	103,800	174,472

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,083,596	1,990,423
減価償却費	237,379	212,463
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	836	△40,434
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△12,085	△5,363
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△40,780	788
受取利息及び受取配当金	△22,327	△28,454
支払利息	23,116	26,774
為替差損益 (△は益)	△71,421	62,150
持分法による投資損益 (△は益)	△55,362	△107,700
固定資産除売却損益 (△は益)	△4,759	6,162
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△9,639
売上債権の増減額 (△は増加)	△508,617	2,968,886
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,009,646	1,098,148
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,131,074	△1,977,742
前渡金の増減額 (△は増加)	△5,552	△532,793
前受金の増減額 (△は減少)	237,751	627,679
破産更生債権等の増減額 (△は増加)	△810	34,507
その他	△194,223	△280,706
小計	2,807,461	4,045,152
利息及び配当金の受取額	37,867	33,771
利息の支払額	△22,966	△21,984
法人税等の支払額	△586,316	△627,416
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,236,045	3,429,523
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△68,896	△253,024
有形固定資産の売却による収入	6,218	848
無形固定資産の取得による支出	△102,353	△53,630
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	242,589
投資有価証券の取得による支出	△30,137	△141
投資有価証券の売却による収入	—	19,845
貸付けによる支出	△1,352	△84,742
貸付金の回収による収入	17,006	687
定期預金の預入による支出	—	△55,634
長期差入保証金増加による支出	△73,320	△28,032
長期差入保証金減少による収入	176,076	56,971
その他	△18,230	△18,481
投資活動によるキャッシュ・フロー	△94,989	△172,743

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△822,564	△700,554
長期借入れによる収入	—	184,742
長期借入金の返済による支出	△309,585	△455,883
配当金の支払額	△253,156	△317,088
非支配株主への配当金の支払額	△108,000	△180,000
その他	△26,776	△17,399
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,520,082	△1,486,183
現金及び現金同等物に係る換算差額	△27,059	20,770
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	593,914	1,791,366
現金及び現金同等物の期首残高	6,303,451	5,457,127
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,897,365	7,248,494

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	航空関連事業	メディア・ラ イフサービス 事業	リテール事 業	フーズ・ビバ レッジ事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,950,877	6,760,546	22,538,696	9,702,039	50,952,158	—	50,952,158
セグメント間の内部売上高 又は振替高	116,998	15,164	13,421	355,277	500,861	△500,861	—
計	12,067,875	6,775,710	22,552,117	10,057,316	51,453,019	△500,861	50,952,158
セグメント利益	187,692	549,414	1,042,892	101,484	1,881,484	△906,274	975,209

(注) 1. セグメント利益の調整額△906,274千円には、セグメント間取引消去3,227千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△909,501千円が含まれています。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	航空関連事業	メディア・ラ イフサービス 事業	リテール事 業	フーズ・ビバ レッジ事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	27,036,061	5,120,322	25,360,841	11,002,304	68,519,529	—	68,519,529
セグメント間の内部売上高 又は振替高	110,211	11,256	9,537	340,221	471,226	△471,226	—
計	27,146,272	5,131,578	25,370,378	11,342,525	68,990,756	△471,226	68,519,529
セグメント利益	625,230	490,222	1,436,022	243,086	2,794,561	△868,062	1,926,498

(注) 1. セグメント利益の調整額△868,062千円には、セグメント間取引消去3,643千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△871,706千円が含まれています。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「リテール事業」セグメントにおいて平成27年7月1日付でグレンフィールド株式会社及びグレンチェック株式会社の株式51%を取得しました。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては10,889千円です。